

川崎市国際交流協会会長賞作品

「夢への扉」

中原小学校 6年 足立 好花

私は、衣食住に関わる仕事につきたいと思っている。人間にとって衣食住はかせないものである。

衣食住の中でも、「住」の仕事を“もっと深めたい”と思っている。家に関わる仕事である建築デザイナーになりたい。最近では、日当たりを重視したり、景色が良い空間を重視するなど、いろいろなアイデアがうまれている中、親子が快適に暮らせる家が話題になっている。

「親子で快適」について、最も多くの支持を受けているのが、「つながっている空間」である。すなわち、親子がいつもそばにいる空間ということだ。

「つながっている空間」とは、いろいろあるが、その中でも、キッチンとリビングについてが、一番多くの支持を受けている。小さい子どもの場合、親が目をはなしたすきに、何がおこるかわからない。そういう点でも、子どもを見守る際に役立つ。

このようなことを日々研究し、ファイルにまとめている。日常で、良いアイデアを見つけたら、紙に書き留め、ファイルに挟む。雑誌で、気になる記事にふせんをつけたり、部屋の雰囲気を良くするための要点をピックアップし、切りとり、ファイルに挟む。そして、私が一週間に一回必ずやっていることが、「まとめノートを作る」ということだ。一週間の間で取り上げた内容全部を、ノートに書き留め保存する。大変ではあるが、楽しみでもある。なぜこのようなことをするかというと、家族の夢を叶えたいからである。私は今、一軒家なのだが、改善したいところもいくつかある。

母は植物が好きで、家に植木などがたくさんある。だが、もっと植物を置く場所がほしいと言う。なので、広い庭がほしい。いろいろな人の話を聞いて、「小さい土地でも、広々とした空間」を目差したいと思った。せまい土地でも、工夫して広い空間にかえたい。そのために今、研究を重ねている。

私が今、広々とした空間をつくり上げるためのアイデアの一つが、「一色に統一する」ということだ。何かというと、壁と家具の色を統一する、ということだ。最近では、壁の色が白色の家が増えてきている。そこで、家具の色も白色にすると、広々としているように感じる上、清潔感もうまれる。もしも、何か物足りないと感じるなら、アクセントとして花などの置き物を置いても良い。一体感を意識すると広く感じるということが、これまでの研究でわかった。

部屋を工夫して、良い空間をつくり上げることが、私の目標である。そして、世界の人々に支持される、『世界的建築デザイナー』になりたいと思っている。

今までにないアイデアをうみ出し、世界の人々に、「すごい!」「快適なのにきれいで、すてき!」などと言われるような建築を手がけるデザイナーになりたい。いや、なるのだ。私の夢の扉はまだ閉まっている。この扉を自分で開けるのだ。未来の私が、開けるのだ・・・。